

巻頭言

時代の要請に応じて進化し続ける三菱電機のIT

Continuous Evolution of Mitsubishi Electric's IT, According to the Demands of the Times



織戸浩一 Koichi Orito

専務執行役 インフォメーションシステム事業推進本部長
Senior Vice President, Group President, Information Systems and Network Service

三菱電機技報でのIT関連の特集号を発行するに当たり、一言ご挨拶申し上げます。昨今、コロナ禍の影響で在宅勤務が基本になり、企業活動のITサービスへの依存度が高まっています。ITは知らず知らずのうちに私たちの生活に深く浸透し、大きな社会変化に伴う様々な問題を解決する原動力にもなっています。このような進化を遂げてきたITは、1950~1960年代の計算機の高速・高性能化から始まり、ハードウェアの進化とともに1970~1980年代には大規模制御システムへの計算機の適用が進み、1990年代に入り、パソコン、インターネット・Webの普及によって一般の人々にも広く浸透しました。さらに2000年以降、携帯電話・スマートフォンといった情報端末を一人一人が24時間身に着ける時代になり、今日では、世の中のありとあらゆるものがネットワークにつながるIoT(Internet of Things)の時代を迎えて、私たちの生活をより豊かなものにしていきます。

当社においても、私たちが長年取り組んできたIT単独の事業から、今日ではIoTのように当社の各事業が持つ機器に付加価値を与えるものとして扱われるようになり、今後はそこで扱われるデータから新たな付加価値を生み出す時代を迎えようとしています。

ここで、当社のITの歩みを振り返ってみたいと思います。1968年にオフィスコンピュータ“MELCOM81”を発売しました。この機種は、電子式会計機をベースに、演算部を電子化してプログラム内蔵方式にした、当社のオフコン

“MELCOM80シリーズ”の最初のモデルで、その後、国内で事務処理向け中・小型コンピュータの総称として広く浸透・定着した“オフコン”の名称の由来になり、計算機カテゴリーの一時代を築きました。1981年には、国産初の16ビットパソコン“MULTI16”を発売しました。この機種は1メガバイトのアドレス空間、高解像度グラフィックス、最大4,000漢字を扱える本格的な日本語機能など、当時の先進機能を備える高性能な業務用パソコンとして、事務処理や科学技術計算、ホストコンピュータの分散処理端末等の業務で威力を発揮しました。続いて1989年にオフコン向けの超高速リレーショナルデータベースプロセッサ“GREO”を発売しました。東京大学生産技術研究所の喜連川 優 助教授(当時)の研究成果を製品化し、データのソート処理を高速化する専用ハードウェアによって、既存のアプリケーションプログラムを変更することなく、処理負荷の重いソート処理を計算機本体から切り離して高速処理することで、データベースアクセスを従来の3~50倍に高速化し、CPU負荷を1/10~1/200に軽減しました。その効果の分かりやすさ、使い勝手の良さから広く普及し、当社オフコンのシェア拡大に大きく貢献しました。2000年にはソート処理性能の世界記録^(注1)を樹立しました。

このようなハードウェアをベースにした過去の技術蓄積を脈々と次代に受け継ぎながら、付加価値の源泉がハードウェアからソフトウェアに移り変わる時代の流れを反映し、今日、当社のIT事業はそのほとんどがシステム構築、パッケージ

ソフトウェア提供によるものになってきています。2000年以降は、航空管制システム、金融機関向けネットワークシステム、製造業顧客向け経営管理・工場管理システム等のシステムを構築・納入し、社会活動や顧客の業務を陰で支え続けています。また、保険薬局システム“薬剤Melphin”、人事・総務トータルシステム“ALIVE SOLUTION”、社会保険労務システム“ARDIO”などのパッケージソフトウェア事業も行っており、多くの顧客からの高評価を得ています。さらに、インフラサービスとして、オンデマンドITサービス“DIAXaaS”、ITシステムの開発効率化に寄与する統合IoT“ClariSense”を提供し、加えて、特徴的なアプリケーションとして、関数型暗号技術によって、メモリ上でもデータを暗号化したまま処理し、セキュアにファイル交換を行えるパッケージプラストランスポーター、当社AI技術“Maisart”を用いた映像解析AI技術によって、サポートが必要な交通弱者、放置された危険物等、見つけたものを人手によらずカメラ映像から自動で探し出す映像解析ソリューション“kizkia”も提供しています。

一方、当社グループのITを支える活動として、グローバルITインフラ、各事業の業務を支える情報システム、社外からのリモートアクセスサービス等も提供し、とりわ

け、昨今のコロナ禍で大多数の社員が在宅勤務に移る中、それを支えるITインフラを素早く展開し、グループ企業活動にも貢献してきました。

今後、世の中のデジタルトランスフォーメーションの潮流、特にデータから付加価値を引き出す取組みが求められ、在宅勤務を基本とする新常态をスムーズに支えるITインフラの提供、更に激しさを増すサイバー攻撃からの防御等、ITに求められる要求はますます高くなることを見込まれます。このような背景の下、私たちは、現在の事業に加えて、ヘルスケアの切り口からデータ利活用事業に取り組み、IT領域からOT(Operational Technology)領域へのセキュリティ事業の拡大、社会の目としてますます活用が拡大する映像解析ソリューション等、新たな事業にも取り組んでいきます。次の100年を見据え、社会生活を一変させて気づきもしなかった付加価値を生む原動力として、今後も当社のITを育てていきたいと思えます。これからも、当社のITを担う主力部隊として、私たちの活動にご期待ください。

(注1) Sort Benchmark Home Page : Mitsubishi DIAPRISM Hardware Sorter
<http://sortbenchmark.org/>